

新人学芸員からのごあいさつ

木 山 加奈子

はじめまして。今年の4月からお世話になっております、木山加奈子と申します。

植物、特にコケやきのこ、地衣類などの非維管束植物を担当しています。

来歴や興味・関心

小さいころから植物が好きでしたが、高校生の時に地球環境問題が取りざたされるようになったことに影響を受け、環境教育にも興味を持つようになりました。大学では森林科学を専攻し、自然（特に森林）と人とのかかわりを中心に学んできました。その内容は社会科学に近く、森林だけでなく山村のくらしに関する調査も経験しました。自然と付き合う山の知恵には、なるほど！と思うことがたくさんある一方、過疎化や高齢化などでそうした知恵が失われていく現状も知りました。

研究について

私の研究対象は、森林について学べる施設（森林学習施設）の役割です。これまでに、こうした施設の管理・運営や、そこで行われているボランティア活動に関する研究をしてきました。

森林学習施設は森林・林業のPRや自然保護思想の普及のために地方自治体等によって数多く作られてきましたが、現在、施設の維持管理や活用が課題となっています。うまく活用すれば地域の自然に関する情報を蓄積したり、環境教育の拠点になる可能性があるのですが、そうした活動を展開するための人員や予算が足りないことが多くあります。そこでボランティアに頼るところが多くなっているというのが現状ですが、各施設におけるボランティアの位置づけは、さまざまな要因によって変わってきます。中でも、施設の管理・運営の安定性が大きく影響しているようでした。

一方で、ボランティア活動を通じて、ボランティア自身に興味・関心の幅が広がるなどの変化が見られました。これは、彼らがなぜボランティア活動をするのかを考える上で重要なことであると考えられます。

博物館の教育普及活動

博物館には展示があり、日々さまざまな講座や観察会も行っています。しかし、博物館の教育普及活動はそれだけではありません。ボランティア活動などを通じて博物館や学芸員と日常的にかかわり続けることで、市民の自然に対する理解や考えがさらに深まっていく。そういった部分も、博物館の重要な教育普及活動だといわれています。

おわりに

地域の自然に関する資料を後世に残すとともに自然に関する情報や研究成果を蓄積し、さらに多くの方が自然の面白さに触れるお手伝いができる博物館学芸員という職業につけたことがとても嬉しく、わくわくしています。

担当の非維管束植物についてはまだまだ勉強中ですが、早く一人前になれるように、そして彼らの魅力を多くの方々と共有できるように、日々精進していきますので、温かく見守っていただければ嬉しいです。

また、私は東京都の町田市出身で、今年の3月に埼玉県民になりました。ですから、埼玉県やその自然について、まだまだ知らないことばかりです。多くのことを吸収して、みなさまに興味を持ってもらえるような形で還元していきたいと思っていますので、ぜひ、いろいろ教えてください。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします！



2014年7月 立山室堂（富山県）にて

（きやま かなこ・学芸員）



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉県立自然の博物館ニュースレター 瀬 第23号 平成26年9月30日発行
 編集発行 埼玉県立自然の博物館 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1
 TEL 0494-66-0404 (総務担当) 0407 (学芸担当) FAX 0494-69-1002
 URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/> E-mail t660404@pref.saitama.lg.jp